
クリスマスメール

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスメール

【Nコード】

N3868J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

クリスマスに気になるあの子からメールをもらいましたあああああ！

本日は開校記念日。

寝て休もうと、のんびんだらりとベットにごろついていたら、ベット脇の携帯が震えた。メール着信のランプ。

めずらしい。休日にメールなんて。

大学までなると、大抵の予定は平日に決めてしまっし、急な呼び出しのほとんどは電話だ。誰だろうと画面に目を通すと、同じゼミの女の子からだった。

途端に、心臓が飛びはねる。

何故なら彼女は男達の間でアイドル化している、

「超」

がつくほどの美少女。

かという俺は、彼女に片想い中なのだから。

息を整えつつ本文を開くと、内容は更に鼓動が激しくなるものだった。

「クリスマス空いてますか？」

どういうことだ。俺に恋人がいないことは彼女も知っているはずだ。もしかして俺は誘われているのか？

どぎまぎしながらメールを返す……空いてますよ。
すぐにメールは返ってきた。

「クラシック好きですか？」

まさか。

まさかやはり俺は誘われているのか。

俺は、クリスマスコンサートに誘われているんじゃないか!?

もちろん俺は即答した。大好きです、と（クラシックなんて知らないけど）。

彼女の返事もまた、即答だった。

「本当ですか、よかつたらコンサートに行きませんか？ チケットが一枚余っちゃったんです（*^|^*）」

キタよ！

間違いないよ！

俺は思わず歓喜の声をあげながら部屋中を乱舞した。苦節十八年、ようやく俺にも春が来たのだ。しかもミカエル級の大天使が。

うち震える手を押さえつつ俺は、もちろんいいよ、と紳士的な回答を添えて返信ボタンを押した。

ああ、女の子とクリスマスにクラシックなんて、初めてだ。一体なに着てきやいいんだ、とりあえずカジュアルめなスーツに革靴、時計はしてかなきゃ駄目だよなプレゼントも持ってかなきゃ、花はどうだろやつぱり赤い薔薇の花束君の年だけかあああゝ!?

携帯がカノンを奏でる（彼女のために設定しました）。

僕は世界で一番凜々しい顔で携帯をすばやく取った。

「嬉しいです！

急にバイトが入って困ってたんですよ。私の彼氏がご相席することになりますけど、お手柔らかに頼みますね（^・^）」

その日から俺の、長い長い開校記念日が始まった理由は、言ってもありません。

（もう女なんか信じない。）

(後書き)

2006年製作

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3868j/>

クリスマスメール

2011年1月27日08時15分発行